審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課美術館

会議名 令和6年度第1回諏訪市美術館協議会

開催日時 令和6年12月25日(水) 13時30分 から 15時30分まで

開催場所 諏訪市公民館講義室

出席者 (出席委員) 唐沢浩一、輿石美和子、竹森公男、藤森民雄、宮坂武芳 (敬称略)
(欠席委員) 金井直、川上圭子、源馬菜穂、高田一郎、西村文子 (敬称略)
(オブザーバー) 玉本教育委員 ※欠席
(事務局) 三輪教育長、細野教育次長、小林文化芸術担当課長、濱館長、北原主任

資料 令和6年度第1回諏訪市美術館協議会 資料

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 自己紹介
4. 正副委員長選出 委員長：藤森民雄、副委員長：宮坂武芳
5. 議事
 - (1)美術館資料寄贈に係る手続き・審議マニュアルについて(報告)
 - (2)美術資料寄贈審議会委員の選出について 金井委員、竹森委員、藤森委員長、宮坂副委員長
 - (3)第二次諏訪市教育振興基本計画に基づく令和6年度の重点的な取組について(報告)
 - (4)意見交換

1. 開館70周年(令和8年度)に向けた取組について・・・収蔵品を重点的に紹介し、改めて諏訪の美術を見つめる機会とすることについて

<主要な意見>

- 原輝美について・・・興味深い作品を軸に展開する事業は大変有意義。若い人に夢や希望を与える題材。
- 保存修復も美術館の重要な役割であり、その過程や成果の公開も積極的に進めてほしい。
- 美術館は敷居が高く美術が好きの人だけの世界だと思われる感じが強い。敷居を下げることを目標に。
- 収蔵作品の広報を工夫してほしい。
- 原輝美のご遺族へインタビューさせてもらい展示に活かす。
- 60周年からの10年間の美術館活動の振り返り。各展示のパネル等の著作物を編纂し直して掲出。収蔵作品のデジタルデータをホームページで公開。周年記念誌の作成。活動の成果を年譜で見せる等。
- 普段美術館に来ない人にも届く特別感のある開けた企画。市民が選んだ収蔵作品を展示する。ターゲットを若年層に絞るなどの工夫。市民が来たくなり開催が楽しみになる展覧会に。

2. 美術館イベント補助ボランティアの活性化について・・・やりがいを感じながら美術館の活動に携わってもらうために、美術館はどのように働きかければ良いか、2つの視点から。①やりがいを感じる活動の場とはどのようなものが考えられるか。②そうした場を作るためには何が必要か。

<主要な意見>

- 美術が好きであれば専門知識がなくても一緒に学んでいきましょう。という美術館側の姿勢。
- 自分に返ってくるものが大きいこと。誰かの為になったと実感できること。
- ボランティアがいろいろ多様な視点から作品に触れ、美術を語ることができるように、学芸員との学習や情報交換の機会を増やす。自館のみならず他館の展示の内容や印象を語り合う。
- 現状、美術館がボランティアに期待している範囲が狭すぎると思うので間口を広くしてみてもいい。
- 未来を担う子ども達に市民の財産を引き継いでいくという使命感を持って勉強してもらおう。まずは子ども達と一緒に作品を観るところから始め、興味のある人は専門的な仕事を受けってもらおう。
- 館ホームページ、インスタグラムの記事作成。館内のデコレーション。表面的な関わりではなくその場で感じたことを発信してもらおう。人が行き交う場となるような活動。ある程度お任せして楽しく作り上げてもらおう。
- ミュージアムのアクセシビリティの観点から、福祉関係のお手伝い。
- 中学生や高校生にも参加・活躍の場を。

6. その他

7. 閉会